

外国人患者受入体制整備に向けた 実態調査業務

結果の概要について

- I 調査の概要
- II 調査結果の概要
- III 調査結果の分析

I 調査の概要

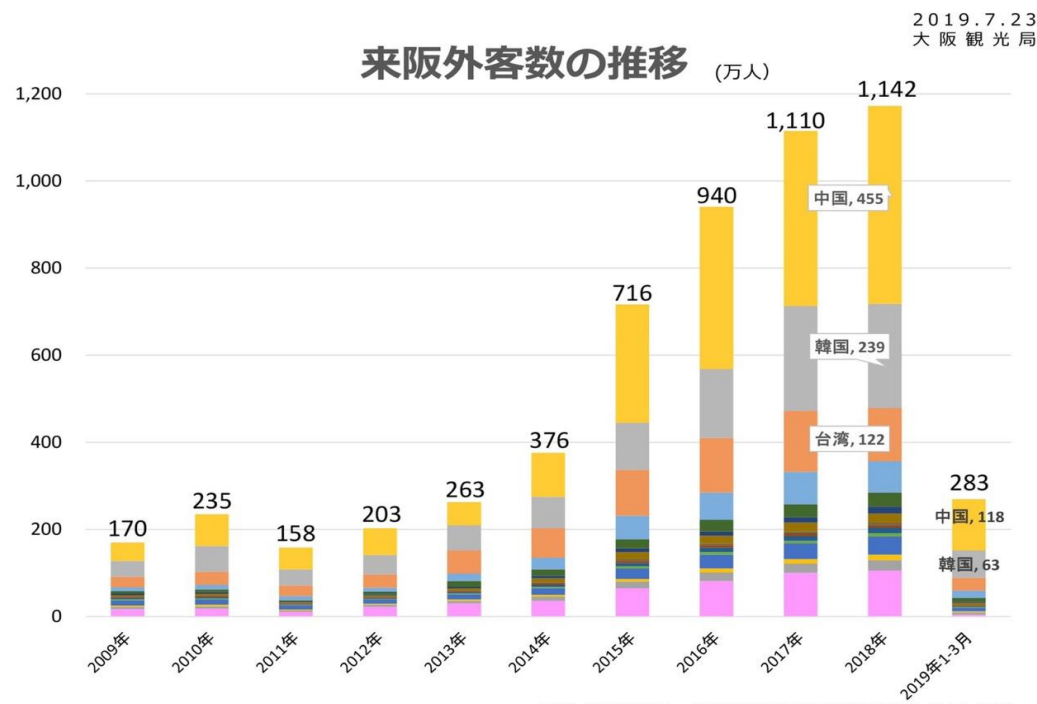
1 調査の目的

近年訪日外国人が増加し、更に2019年4月新たな在留資格「特定技能」を新設する改正出入国管理法が施行され、2019年度は最大で4万7,550人、5年間で約34万5,000人の外国人労働者の受入れが見込まれています。

このような中、課題の解決に向け厚生労働省では、外国人に対する医療提供体制の現状の把握が必要とし、全国の病院を対象とした実態調査が平成30年度より実施され、令和元年度も引き続き同様の調査が実施されることとなりました。

本府においても、2018年は1,142万人と急増する来阪外国人旅行者及び外国人人材受け入れ拡大の中で増加が見込まれる府内在留外国人が、急な病気やケガをした際の受入れ状況について、昨年度に引き続き、府内517件の病院、また府内においてランダムに抽出された100件の診療所を対象にアンケート調査を実施し、厚生労働省調査項目と併せて府独自に実態を分析することとしました。

加えて、昨年度の調査結果と経年比較・分析も行い、府の今後の外国人患者受入体制整備に向けた基礎資料として活用することといたしました。



JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに推計。

2 調査の方法及び調査結果

①病院調査

府内全病院517件、診療所100件にアンケートにより調査を行った。

(※調査期間 令和元年9月～令和2年2月7日まで)

- ・調査方法：郵送及びメールで配布、郵送及び電子メールで回収
- ・調査対象：大阪府内の全病院517件（令和元年8月時点）

調査票	配布件数	回収件数	回収率
A 医療機関における受入体制に関する調査	517件	356件	68.9%
B 外国人患者の受入に関する調査	517件	296件	57.3%
C 大阪府独自追加調査	517件	338件	65.3%

②診療所調査

- ・調査方法：郵送及びメールで配布、郵送及び電子メールで回収
- ・調査対象：大阪府内の診療所100件を抽出

調査票	配布件数	回収件数	回収率
A 医療機関における受入体制に関する調査	100件	52件	52.0%
B 外国人患者の受入に関する調査	100件	47件	47.0%
C 大阪府独自追加調査	100件	51件	51.0%

Ⅱ - 1 調査結果の概要：病院調査

アンケート調査 病院調査結果 (調査票 C)

◆平成30年度の外国人患者数

※各医療圏人数下段の(～人)は昨年度調査結果

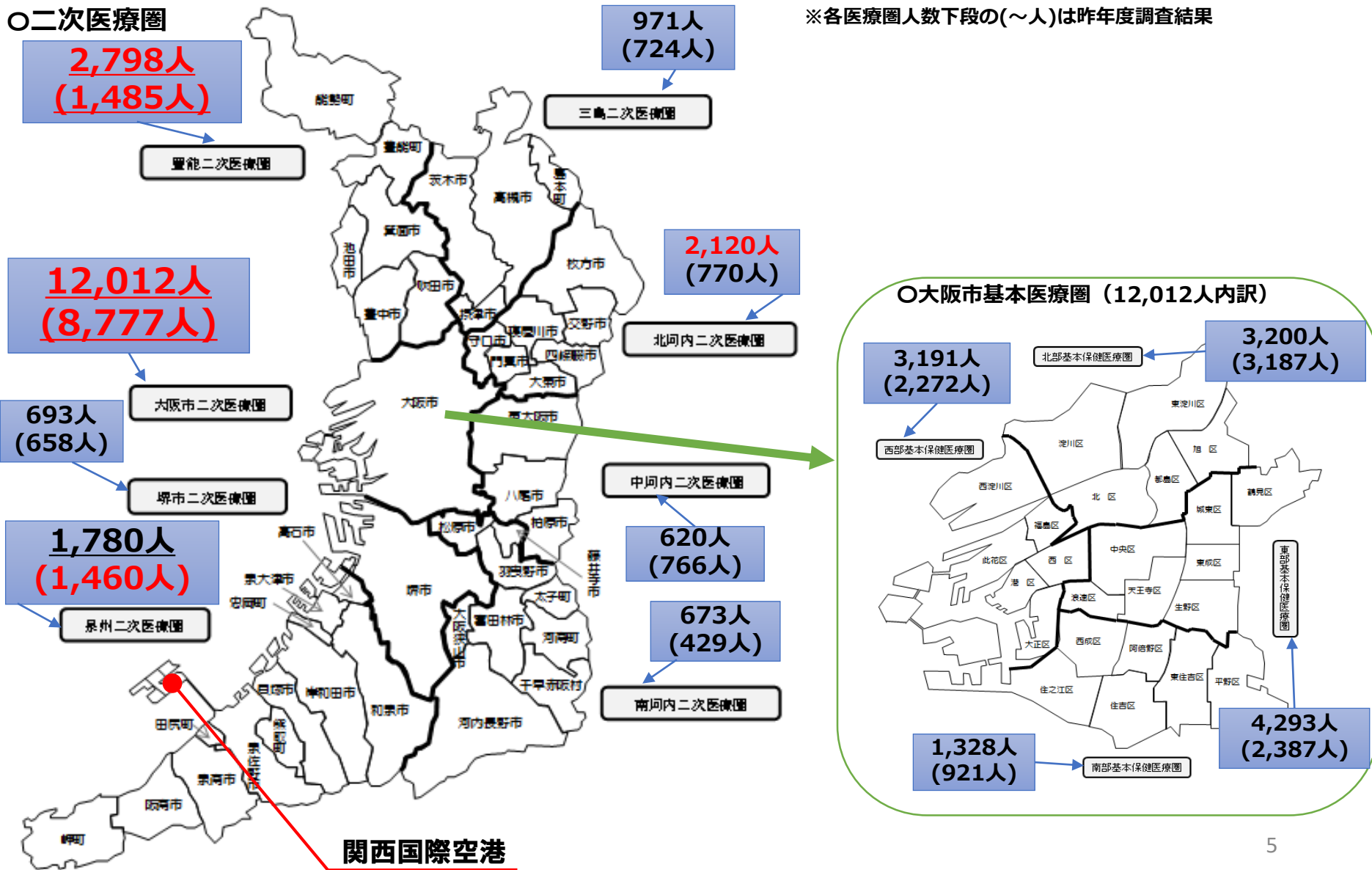
医療圏	新規入院患者		外来初診患者		合計
		うち救急搬送患者		うち救急搬送患者	
豊能	375人 (163人)	27人 (17人)	2,423人 (1,322人)	68人 (131人)	2,798人 (1,485人)
三島	143人 (96人)	13人 (11人)	828人 (628人)	52人 (35人)	971人 (724人)
北河内	222人 (79人)	44人 (27人)	1,898人 (691人)	134人 (38人)	2,120人 (770人)
中河内	60人 (112人)	18人 (18人)	560人 (654人)	20人 (30人)	620人 (766人)
南河内	49人 (72人)	3人 (14人)	624人 (357人)	18人 (25人)	673人 (429人)
堺市	126人 (112人)	36人 (30人)	567人 (546人)	74人 (105人)	693人 (658人)
泉州	260人 (205人)	20人 (44人)	1,520人 (1,255人)	86人 (119人)	1,780人 (1,460人)
大阪市全体	1,471人 (1,237人)	370人 (235人)	10,541人 (7,530人)	1,639人 (1,351人)	12,012人 (8,777人)
大阪市北部	581人 (533人)	84人 (97人)	2,619人 (2,654人)	177人 (431人)	3,200人 (3,187人)
大阪市西部	239人 (199人)	70人 (45人)	2,952人 (2,073人)	558人 (397人)	3,191人 (2,272人)
大阪市東部	526人 (335人)	155人 (75人)	3,767人 (2,052人)	698人 (365人)	4,293人 (2,387人)
大阪市南部	125人 (170人)	52人 (18人)	1,203人 (751人)	206人 (158人)	1,328人 (921人)
合計 (豊能～大阪市全体まで)	2,706人 (2,076人)	522人 (396人)	18,961人 (12,983人)	2,091人 (1,834人)	21,667人 (15,059人)

アンケート調査 病院調査結果 (調査票C)

◆平成30年の外国人患者数の二次医療圏・基本医療圏別分布図

○二次医療圏

※各医療圏人数下段の(~人)は昨年度調査結果



アンケート調査 病院調査結果 (調査票 C)

◆平成30年度の種別ごとの外国人患者数

(a) 訪日外国人患者

医療圏	新規入院患者		外来初診患者		合計
		うち救急搬送患者		うち救急搬送患者	
豊能	4人	4人	44人	4人	48人
三島	10人	0人	35人	1人	45人
北河内	20人	7人	144人	8人	164人
中河内	1人	0人	16人	1人	17人
南河内	0人	0人	3人	0人	3人
堺市	7人	3人	22人	4人	29人
泉州	21人	8人	129人	18人	150人
大阪市全体	74人	38人	1,010人	220人	1,084人
大阪市北部	29人	6人	329人	3人	358人
大阪市西部	13人	9人	367人	121人	380人
大阪市東部	8人	8人	177人	56人	185人
大阪市南部	24人	15人	137人	40人	161人
合計 (豊能～大阪市全体まで)	137人	60人	1,403人	256人	1,540人

(b) 在留外国人患者

医療圏	新規入院患者		外来初診患者		合計
		うち救急搬送患者		うち救急搬送患者	
豊能	178人	16人	1,131人	8人	1,309人
三島	74人	5人	392人	22人	466人
北河内	135人	13人	876人	63人	1,011人
中河内	52人	18人	374人	18人	426人
南河内	25人	0人	247人	5人	272人
堺市	49人	8人	133人	16人	182人
泉州	48人	6人	818人	34人	866人
大阪市全体	477人	116人	3,990人	518人	4,467人
大阪市北部	164人	6人	279人	5人	443人
大阪市西部	44人	26人	698人	257人	742人
大阪市東部	169人	48人	2,087人	91人	2,256人
大阪市南部	100人	36人	926人	165人	1,026人
合計 (豊能～大阪市全体まで)	1,038人	182人	7,961人	684人	8,999人 ⁶

アンケート調査 病院調査結果 (調査票 C)

(c)医療を目的に訪日した外国人

医療圏	新規入院患者		外来初診患者		合計
		うち救急搬送患者		うち救急搬送患者	
豊能	12人	0人	492人	0人	504人
三島	11人	0人	23人	0人	34人
北河内	1人	0人	30人	0人	31人
中河内	0人	0人	0人	0人	0人
南河内	1人	0人	11人	0人	12人
堺市	0人	0人	9人	0人	9人
泉州	15人	0人	2人	0人	17人
大阪市全体	8人	5人	48人	2人	56人
大阪市北部	4人	4人	20人	2人	24人
大阪市西部	0人	0人	0人	0人	0人
大阪市東部	4人	1人	12人	0人	16人
大阪市南部	0人	0人	16人	0人	16人
合計 (豊能～大阪市全体まで)	48人	5人	615人	2人	663人

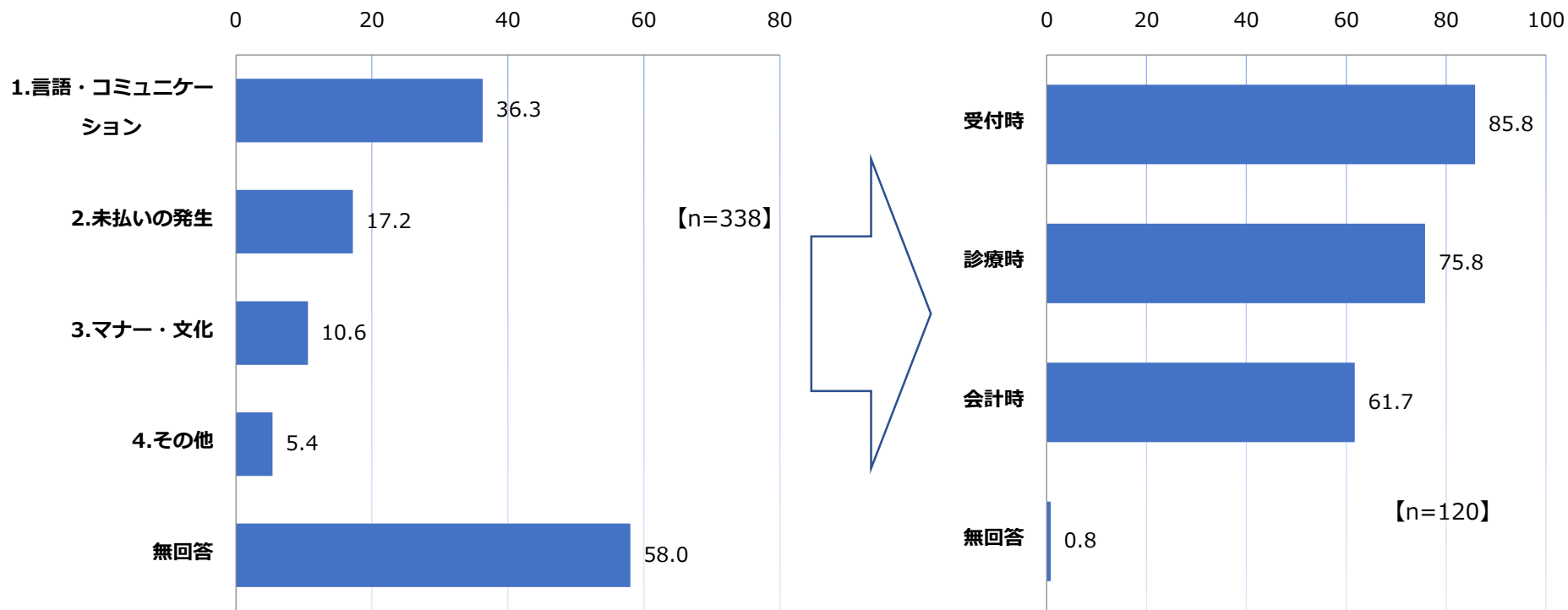
(d)上記(a)か(b)か(C)か不明

医療圏	新規入院患者		外来初診患者		合計
		うち救急搬送患者		うち救急搬送患者	
豊能	181人	7人	756人	56人	937人
三島	48人	8人	378人	29人	426人
北河内	53人	20人	671人	56人	724人
中河内	7人	0人	87人	0人	94人
南河内	21人	3人	240人	11人	261人
堺市	70人	25人	403人	54人	473人
泉州	175人	6人	570人	34人	745人
大阪市全体	912人	199人	5,433人	880人	6,345人
大阪市北部	384人	67人	1,993人	167人	2,377人
大阪市西部	182人	35人	1,887人	180人	2,069人
大阪市東部	345人	96人	1,483人	532人	1,828人
大阪市南部	1人	1人	70人	1人	71人
合計 (豊能～大阪市全体まで)	1,467人	268人	8,538人	1,120人	10,005人

アンケート調査 病院調査結果 (調査票C)

◆外国人患者を受け入れた際のトラブル

外国人患者を受け入れた際のトラブルで最も多いのが「言語・コミュニケーション」の問題で、「受付時」と「診療時」にトラブルが多くなっています。



外国人患者を受け入れた際に実際に発生したトラブルについて、「言語・コミュニケーション」が最も多く36.3%、次いで「未払いの発生」が17.2%、「マナー・文化」が10.6%となっています。

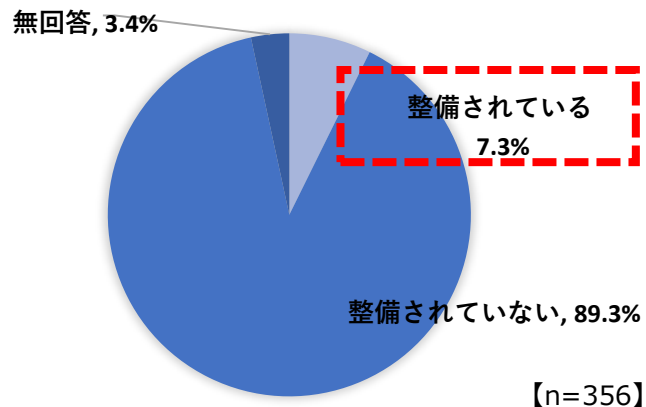
※昨年度調査では、「言語・コミュニケーション」が最も多く39.2%、次いで「未払いの発生」が18.6%、「マナー・文化」が16.4%となっており、昨年度と似た結果になっています。

外国人患者を受け入れた際に言語・コミュニケーションでトラブルが発生した状況について、「受付時」が最も多く85.8%、次いで「診療時」が75.8%、「会計時」が61.7%と続いています。

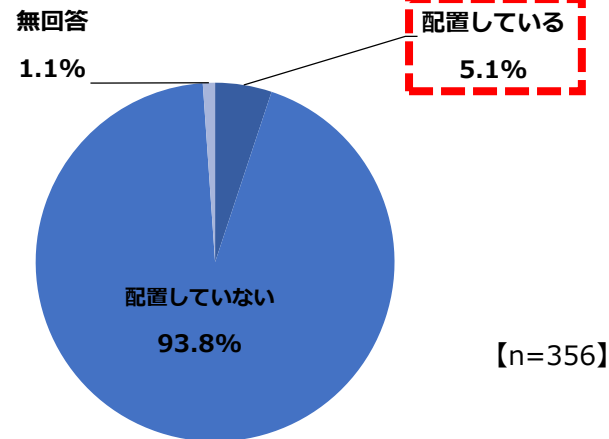
※昨年度調査では、「受付時」が最も多く85.3%、次いで「診療時」が69.2%、「会計時」が63.6%となっており、昨年度と似た結果になっています。

アンケート調査 病院調査結果 (調査票A)

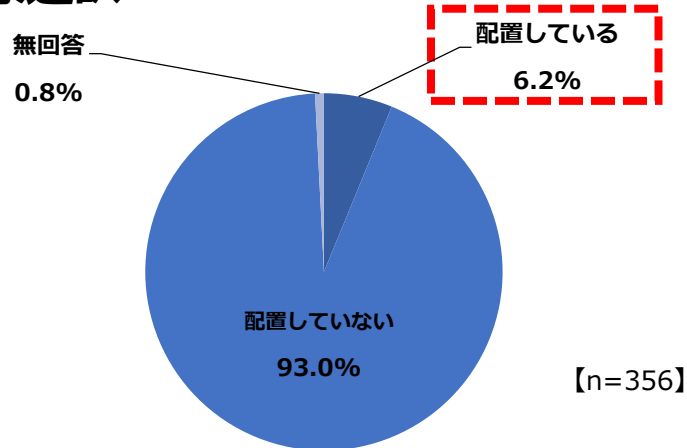
◆外国人患者対応のマニュアル



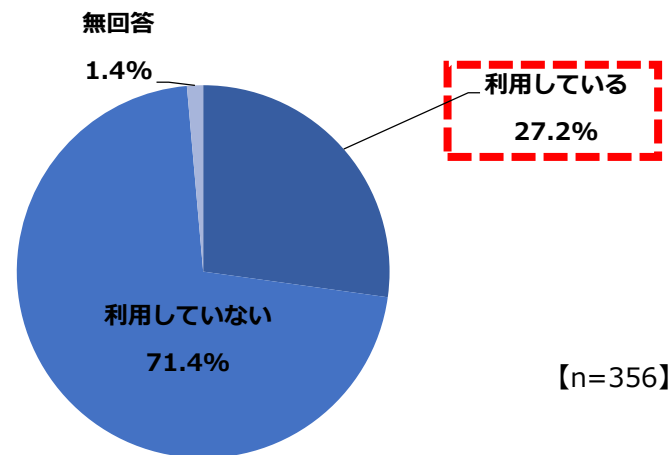
◆外国人向けの医療コーディネーター



◆医療通訳



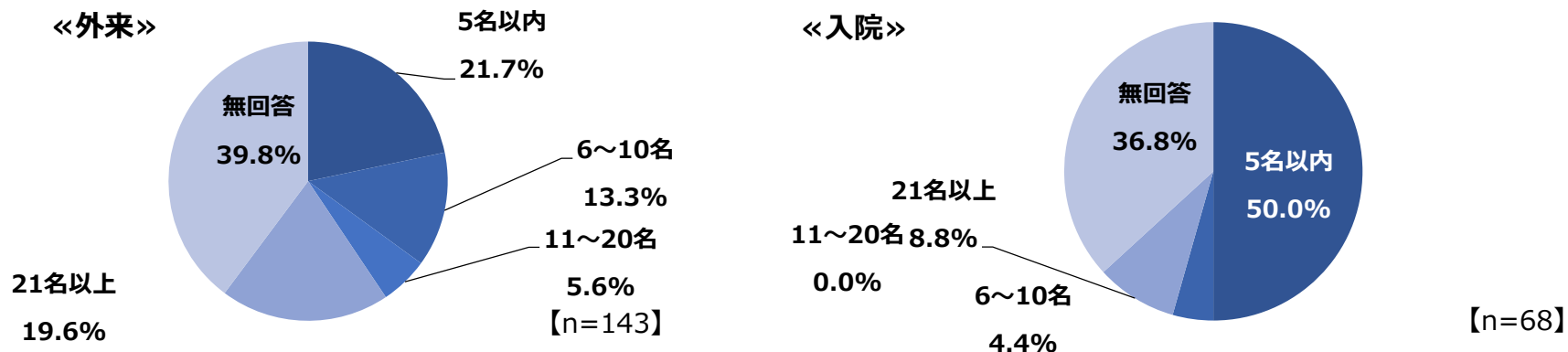
◆電話通訳 (遠隔通訳)



「医療コーディネーター」「医療通訳」の配置については昨年度に比べ大きく変化はありませんが、「電話通訳(遠隔通訳)」の利用は昨年度の5.8%から約4倍に増加しています。

アンケート調査 病院調査結果 (調査票B)

◆令和元年10月1日～10月31日の期間に受け入れた在留外国人患者



◆令和元年10月に受け入れた在留外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細

未収金となった金額の合計は、5,816,559円

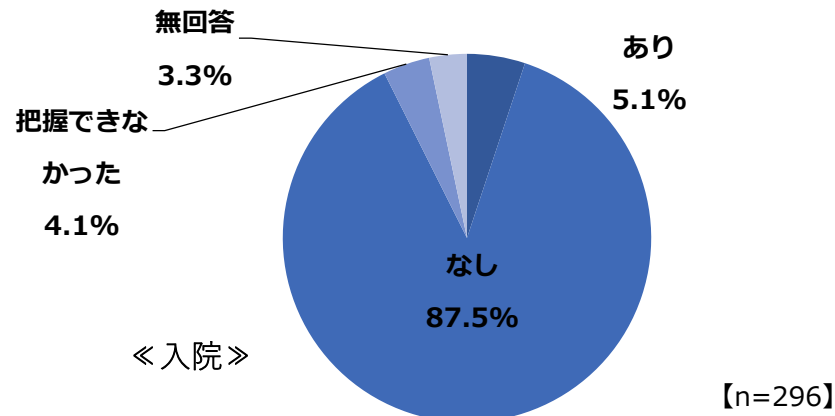
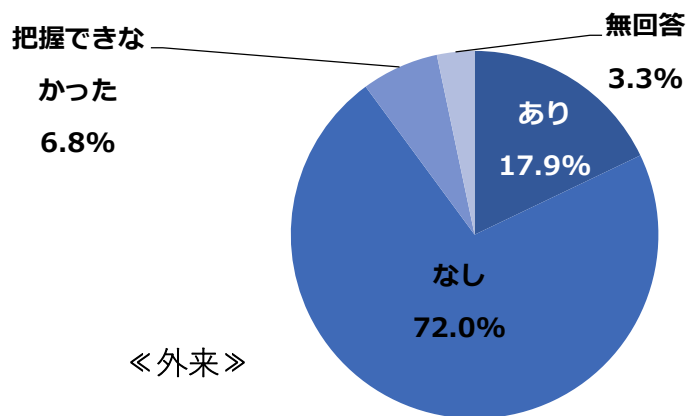
	外来	入院	合計
未収金を生じた延べ患者数	117人 (2.5%) (180人【0.8%】)	32人 (4.3%) (43人【0.7%】)	149人 (2.7%) (223人【0.8%】)
未収金の合計金額	479,723円 (253,144円)	5,336,836円 (1,145,158円)	5,816,559円 (1,398,302円)

受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者について、外来では117人 (2.5%)、入院では32人 (4.3%) で、未収金の合計金額は、外来では479,723円、入院では5,336,836円となっています。

※昨年度調査では、未収金を生じた患者について、外来では180人 (0.8%)、入院では43人 (0.7%) で、未収金の合計金額は、外来では253,144円、入院では1,145,158円となっており、外来・入院共に未収金額が増加 (特に入院) しています。

アンケート調査 病院調査結果 (調査票B)

◆令和元年10月1日～10月31日の期間に受け入れた訪日外国人(医療渡航を除く)



◆令和元年10月に受け入れた訪日外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細

未収金となった金額の合計は、4,879,357円

	外来	入院	合計
未収金を生じた延べ患者数	107人 (24.6%) (179人【1.0%】)	33人 (52.6%) (12人【0.2%】)	110人 (28.5%) (191人【0.8%】)
未収金の合計金額	222,883円 (146,020円)	4,656,474円 (4,897,513円)	4,879,357円 (5,043,533円)

受け入れた患者のうち、未収金を生じた患者について、外来では107人 (24.6%)、入院では33人 (52.6%)、未収金の合計金額は、外来では222,883円、入院では4,656,474円となっています。

※昨年度調査では、外来では179人 (1.0%)、入院では12人 (0.2%)、未収金の合計金額は、外来では146,020円、入院では4,897,513円となっています。

アンケート調査 病院調査結果 (調査票B)

◆令和元年10月1日～31日の期間に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細

		延べ患者数	延べ入院日数	請求金額 (総額)	未収金となった金額
在留外国人	入院	14人	130日	4,803,628円	4,429,703円
	外来	26人	-	513,063円	505,885円
訪日外国人 (医療渡航を除く)	入院	3人	37日	4,856,256円	4,656,475円
	外来	6人	-	429,683円	222,883円
医療を目的に 訪日した外国人	入院	0人	0日	0円	0円
	外来	0人	-	0円	0円
合計		49人 (46人)	167日 (98日)	10,602,630円 (6,131,538円)	10,114,946円 (6,014,308円)

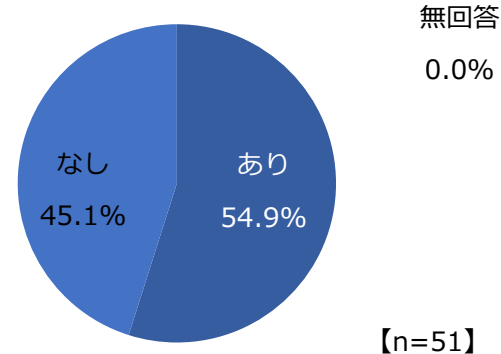
未収金を生じた在留外国人は、入院14人で4,429,703円、外来26人で505,885円、未収金を生じた訪日外国人(医療渡航を除く)は、入院3人で4,656,475円、外来6人で222,883円となっており、未収金となった金額の合計は、10,114,946円となっています。

※昨年度調査では、未収金を生じた在留外国人は、入院6人で1,145,148円、外来28人で347,372円、未収金を生じた訪日外国人(医療渡航を除く)は、入院4人で4,352,418円、外来7人で163,700円、未収金を生じた医療を目的に訪日した外国人は、外来1人で5,670円となっており、未収金となった金額の合計は、6,014,308円となっており、未収金額は増加傾向にあります。

Ⅱ - 2 調査結果の概要：診療所調査

アンケート調査 診療所調査結果（調査票C）

◆外国人患者の年間受入れ実績平成30年度（4月1日～3月31日）中の受入れ実績



※各人数下段の(~人)は昨年度調査結果

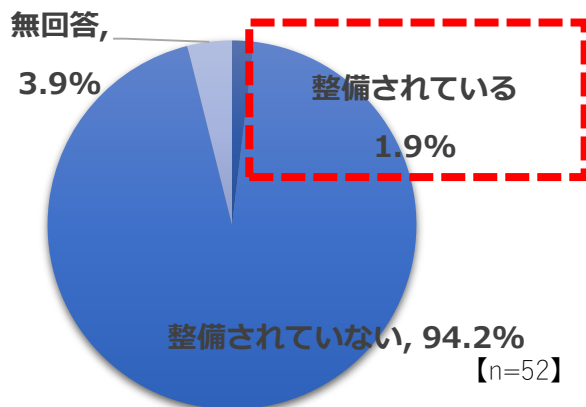
区分	新規入院患者		外来初診患者		合計
		うち救急搬送患者		うち救急搬送患者	
(a+b+c+d)外国人患者合計	15人 (0人)	0人 (0人)	331人 (261人)	0人 (0人)	346人 (261人)
(a)訪日外国人患者	0人 (0人)	0人 (0人)	16人 (24人)	0人 (0人)	16人 (24人)
(b)在留外国人患者	15人 (0人)	0人 (0人)	230人 (205人)	0人 (0人)	245人 (205人)
(C)医療を目的に訪日した外国人	0人	0人	20人	0人	20人
(d)上記(a)か(b)か(C)か不明	0人 (0人)	0人 (0人)	105人 (32人)	0人 (0人)	105人 (32人)

平成30年度の外国人患者数について、新規入院患者数合計346人のうち訪日外国人患者は16人となっており、外来初診患者合計331人のうち訪日外国人患者は16人となっています。

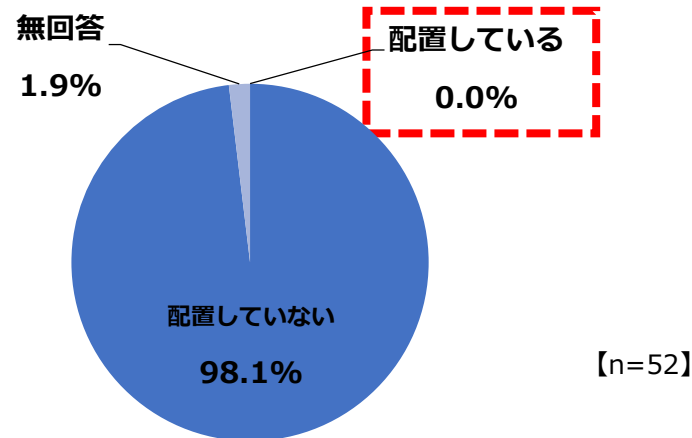
平成30年度の外国人患者の受入実績について、「あり」は54.9%、「なし」は45.1%となっています。
 ※昨年度調査では、「あり」は30.0%、「なし」は68.0%となっており、外国人患者の受入のある診療所が増加しています。

アンケート調査 診療所調査結果 (調査票A)

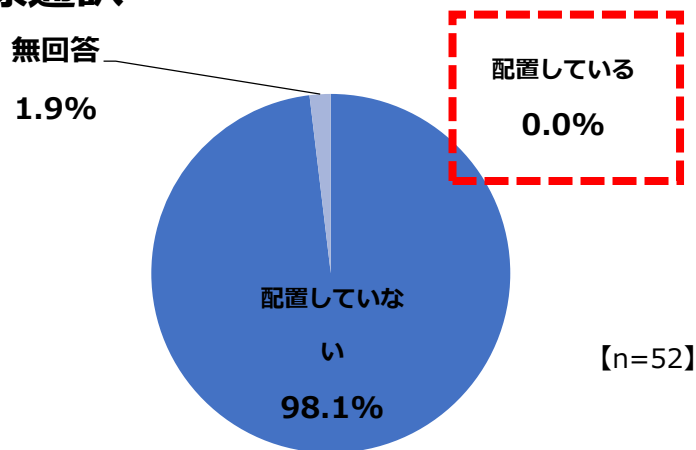
◆外国人患者対応のマニュアル



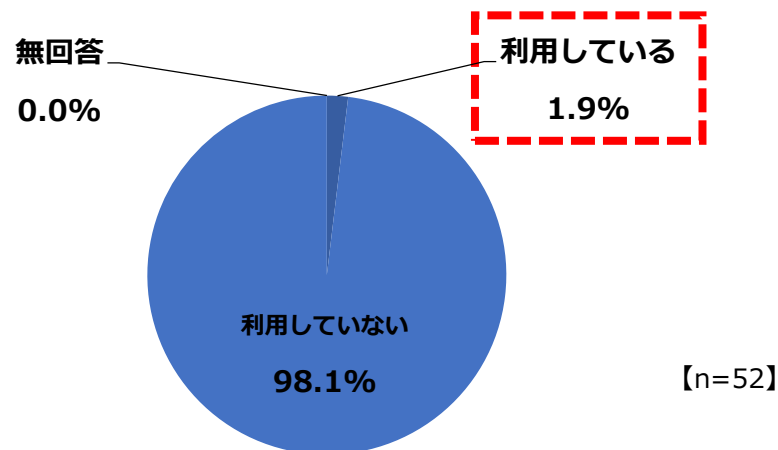
◆外国人向けの医療コーディネーター



◆医療通訳



◆電話通訳 (遠隔通訳)

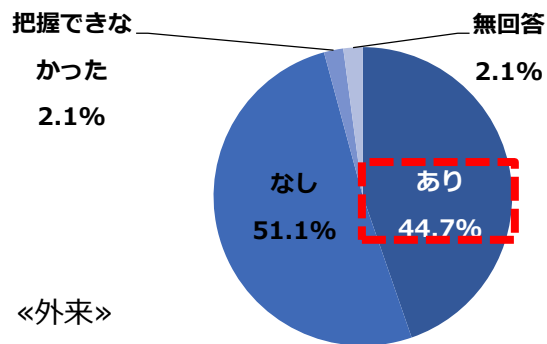


昨年度同様、「コーディネーター」「医療通訳」を配置している診療所はありませんでしたが、「電話通訳(遠隔通訳)」を利用している診療所は昨年度の0件から今年度1件に増加しています。

アンケート調査 診療所調査結果 (調査票B)

◆令和元年10月に受け入れた在留外国人患者

在留外国人患者の受入れがあった診療所は44.7%

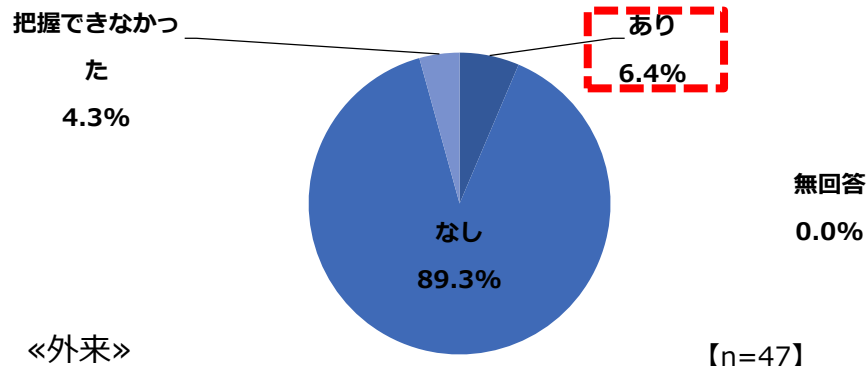


「外来」

【n=47】

◆令和元年10月に受け入れた訪日外国人 (医療渡航を除く)

訪日外国人の受入れがあった診療所は6.4%

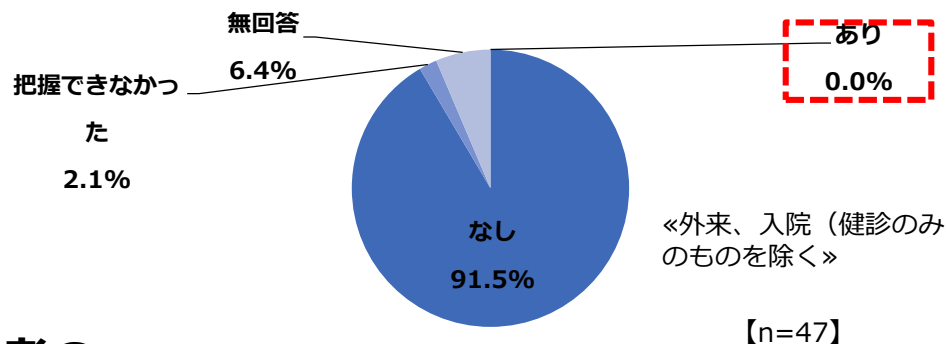


「外来」

【n=47】

◆令和元年10月に受け入れた医療を目的に訪日した外国人

医療を目的に訪日した外国人の受入れがあった診療所は0.0%



「外来、入院 (健診のみのものを除く)」

【n=47】

◆令和元年10月に受け入れた外国人患者のうち、未収金を生じた患者の詳細

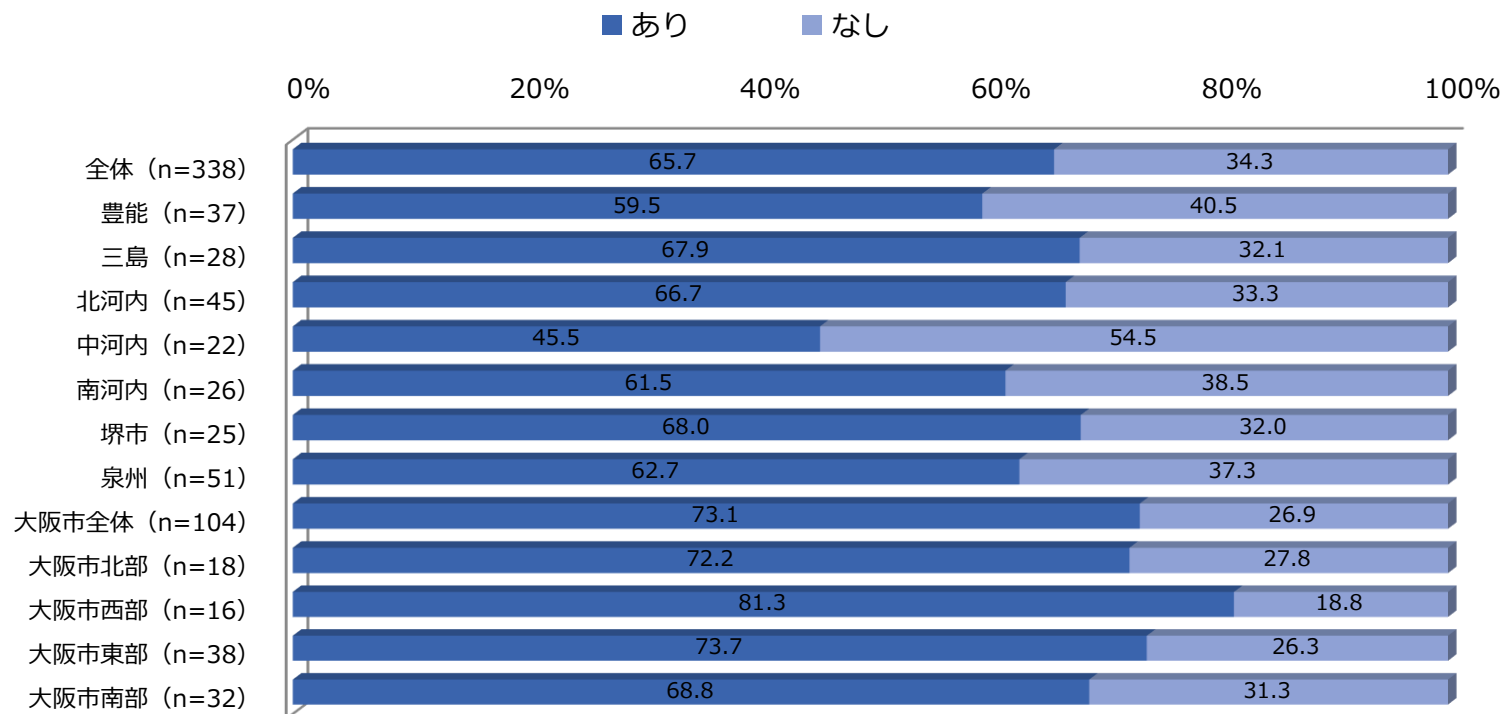
未収金となった金額はありません

Ⅲ 調査結果の分析

◆二次医療圏別の外国人患者受入実績

平成30年度に外国人患者の受入実績があると回答している病院件数は「全体222件」「豊能22件」「三島19件」「北河内30件」「中河内10件」「南河内16件」「堺市17件」「泉州32件」「大阪市全体76件」「大阪市北部13件」「大阪市西部13件」「**大阪市東部28件**」「大阪市南部22件」となっており、受入あり件数で見ると「泉州」が最も多く32件、次いで「北河内」30件、「大阪市東部」28件と続いています。

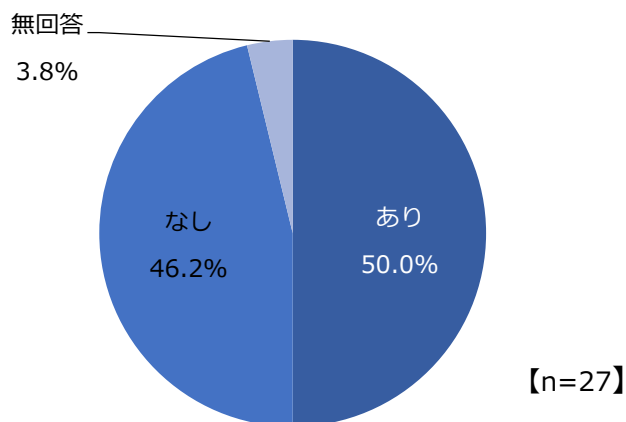
※昨年度調査では、「大阪市東部」が最も多く29件、次いで「泉州」が27件、「北河内」が26件と続いていた。



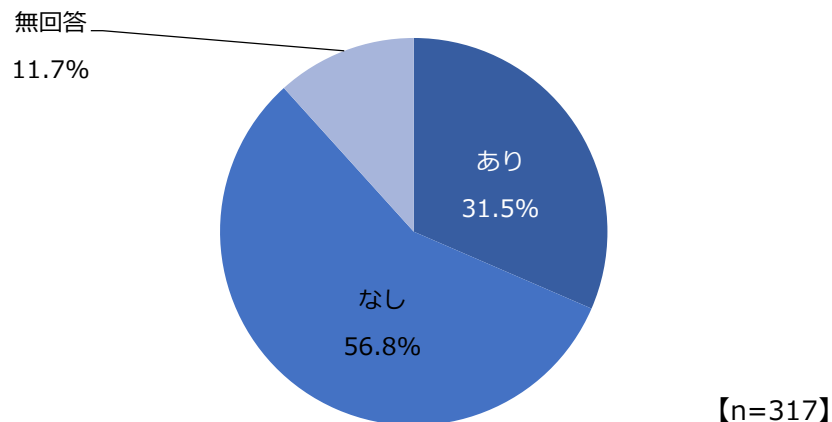
Ⅲ 調査結果の分析

◆外国人患者受入れ環境の整備状況と外国人患者受入れ実態との相関関係の分析

外国人患者対応マニュアルが整備されている病院での外国人患者とのトラブルは「あり」が50.0%「なし」が46.2%となっています



外国人患者対応マニュアルが整備されていない病院での外国人患者とのトラブルは「あり」が31.5%「なし」が56.8%となっています



外国人患者の受入れ実績は概ね「許可病床数」「外来患者」「入院患者」が多い程増加傾向にあり、その分外国人向けマニュアル等を整備していても言語等のトラブルは起きています。しかし、マニュアルがあるが整備されている病院程、外国人患者とのトラブルが多い訳ではなくマニュアル等を使い外国人患者へ対応可能な人員、システムが足りていないからこそそのトラブル件数と思われる。

以上より、外国人患者とのトラブルを減らすためには更なるマニュアル整備が必要であると考察します。